

第 16 回 会 議 録

会議名	<input checked="" type="checkbox"/> 編さん委員会 <input type="checkbox"/> 編集委員会 <input type="checkbox"/> _____ 部会
-----	--

令和6年 3月22日	開催場所	市役所第2・3会議室 午前10時00分から
出席者・委員	林市長・水谷副市長・宇野教育長・伊藤教育委員会代表・杉浦文化財保護委員会代表・丹小中学校校長会代表・近藤文化協会代表・大平区長会代表・西宮編集委員会代表・寺田教育部長・松永企画部長・山崎総務部長	
事務局	河合課長・井上課長補佐・伊藤・中川	
<p>事務局：お手元にあります資料のご確認をお願いします。次第、議題資料、『はじめての知立市史』についての資料、新編知立市史完成記念講演会の資料となります。不足がないかご確認ください。それでは、ただ今から第16回知立市史編さん委員会を開催いたします。本日、新美委員からはご欠席とのご連絡を頂いております。したがいまして、本日出席者は13名中12名となります。過半数に達しておりますので知立市史編さん委員会規程第5条第2項により本委員会は成立いたします。なお、本委員会の会議録は各委員名を記入のうえホームページにて公開いたしますのでご了承くださいませようお願いいたします。</p> <p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、市史編さん委員会会長 林市長から、挨拶申し上げます。</p> <p>1 あいさつ</p> <p>林会長：本日は市史編さん委員会にご参集いただき、誠にありがとうございます。2008年よりスタートいたしました市史編さん事業は、西宮先生はじめ関係各位のお力添えにより、最終巻となります『はじめての知立市史』の発刊をもって一つの区切りとなるところでございます。これまでのご尽力に感謝申し上げます。市史は、まちづくりの参考となるものであると同時に、住民の皆様方の誇りの醸成と継承することの大切さを学ぶことができます。これからは、一人でも多くの方にこの市史を見ていただく、また、楽しんでいただくことが肝要だと思っています。皆様方におかれましては、それぞれのお立場でお力添え賜りますようお願い申し上げます。なお、のちほどお話があらうかと思いますが、今週の日曜日にパティオ池鯉鮒において記念講演会・座談会が催されます。ぜひ、お誘い合わせてご参加いただきますようお願い申し上げます。本日は、よろしく願いいたします。</p> <p>2 議 題 今後の市史編さん事業について</p> <p>事務局：知立市史編さん委員会規定第5条により、会長はその会議の議長となるとされておりますので、会長に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。</p>		

林会長：それでは次第に沿って議事を進めます。議題「今後の市史編さん事業について」事務局より説明をお願いします

事務局：西宮委員より、これまでの事業の報告と今後の市史編さん事業の課題についてお話をさせていただきます。お手元にあります議題資料をご覧ください。よろしくお願ひします。

西宮委員：本日『はじめての知立市史』の刊行について話をするようにと連絡を受けまして、今回、編さん委員会が最後ということになりますので、これまでの知立市史編さんの完了の報告をしたいと思います。私ども編集委員会がどれだけのことをやってきたかということをご様方に知っていただくとともに、編さん事業の今後についても何か関係することがあるのではないかとこの部分で少し私見を述べたいと思います。

議題資料1をご覧ください。私が17年間しておりましたことの総括を記しました。「はじめに」のところは、新編知立市史編さんに至るまでの経緯、歴史を記録として残しておくのが肝要ではないかと思ひまして、短い時間でしたが急いで、今後に資するところがあるのではないかと思ひまとめました。はじめにこう書きましたのは、今回の新編知立市史の前史ということで、実は市域の自治体史編さんはこれまで2回行われているということでございます。お忘れの方も多いたと思ひますので、復習しておきますと、まず、明治時代に村史がつくられます。八橋、牛田村史がつくられていたようですが私は現物を見たことがありません。1906年知立町が成立いたしました後、『碧海郡史』という碧海郡の歴史書がつくられました。どの図書館に行っても常備されているものです。その中で『知立町誌 全』が町長の委嘱で尾村丈太郎氏一人で完成されたもので、当時、1934年『刈谷町誌』、1919年に『愛知県碧海郡安城市誌』が編さんされてます。そのあと、『知立町史参考資料』等が発刊され、1965年に知立町史の新しい知立町誌編纂委員会が発足されたようです。『知立のあゆみ』が知立町60周年記念事業で町民に無料配布されたことと記録に残されていました。その後、編さん事業として『知立神社古文書』『知立町誌 文化財編』『知立の人形浄瑠璃芝居』等が刊行されました。また、1970年12月1日市制施行され、『池鯉鮒宿〈御用向／諸用向〉覚書帳』が市誌資料3、『知立の植物』が市誌資料4として刊行されました。その後、1976年から1979年にかけて『知立市史』上・中・下巻として、第2回目の市史が刊行されました。これは知立市制5周年記念事業であるということです。刊行された当時、『刈谷市誌』（1960年）、『安城市史』（1971年）、『安城市史〔第2〕資料編』（1973年）が刊行されており恐らく触発されたのではないかと思ひます。さて今回、新編知立市史の編さんが行われたわけですが、発端に関しましては詳細不明ですが、その間に近隣自治体では、『新編 岡崎市史』『刈谷市史』『新編 安城市史』『新修 豊田市史』、現在刊行中の『新編 西尾市史』、そして『愛知県史』などが編さんされ、一種の市史ブームが到来したといってもよいと思ひます。その流れの中で知立市史の事務局が2008年に立ち上がり、市史の基本設計は新行氏のもと発足いたします。2010年1月に第1回の編集委員会が開催され、林郁夫市長、新行紀一顧問のもと編さん事業がスタートしました。市史編さん係管轄は資料のとおり変遷しているところです。一方、市史の立ち上げの時、市制40周年記念事業として、『池鯉鮒宿本陣御宿帳』の刊行計画が進んでおり、市史の第5巻目として、当時立ち上がったばかりの近世部会の中で編さんされました。当初は、通史編2巻・資料編6巻の編成になっていました。計

画では2018年に刊行完結予定でしたが、遅れが生じました。何故かといいますと2012年に文化財部会が発足いたしまして9巻目の『別巻 文化財編』が編さんされます。それから2013年7月に八橋グループが発足され、10巻目の『別巻 八橋編』が編さんされたためです。そして、2022年、今回の11巻目『はじめての知立市史』の編さんを開始したということです。『はじめての知立市史』に関しては、2年前の市史編さん委員会にてどの年代をターゲットにするか、大きな議論になったことを当時いらっしゃった方はご承知かと思います。結局、ターゲットは高校生以上で、大人も利用可能な、現在市民の方、これから知立に来られる方の参考になる冊子として作りました。小学生に対しては、学校の現場の先生がアレンジして、あるいは勉強会をして小学校版に作成していただくことも期待しています。したがって、児童にも読めるようできるだけ多くのルビをふる工夫をしております。新編知立市史は全11巻で、コンセプトは市民に親しまれるように平易な文章をめざし、必要があれば多くの写真や図版をいれ、カラー化を基本方針としています。ご覧の通り、オールカラーで図版がふんだんに盛り込まれ、最新の市史になったかと思えます。判型は必要に応じて巻の目的に則して決めました。『資料編 民俗』では「知立まつりと山車文楽・からくり人形」の映像をDVDとして付属しましたし、『資料編 近世』では「東海道池鯉鮒宿並図」ほか、いくつもの古地図をCD-ROMに収めて付録としております。また、『新編 知立市史だより』も第1号から第14号まで発刊した次第です。最後に、これまでの総括と今後の課題の覚書を記しておきまして、口頭でというご意見もあるかと思いますが、記録として残しておかないと10年20年先には消えてなくなると思いたためました。まず、林市長はじめ編集及び編さん委員会委員及び代々の事務局の方々、ご協力いただいた市民の方々全てに厚く御礼申し上げます。ご協力がなければ市史が完成しなかったことは承知しております。そのうえで少し意見を申し上げますと、「2018年には、すべての刊行が終了する予定です。そのころ、全巻が市民みなさんのお手元に届き、ぜひ読んでいただいて知立の歴史・民俗・自然に思いを寄せ、また様々な場で活用し、そして次世代に受け渡していただければ幸いです。」と、私は2011年第1回配本『池鯉鮒宿本陣御宿帳』の「はじめに」で書きました。予告通り無事全巻完成したわけであります。その責務を果たしたということで少しほっとしております。できました暁には、読んでいただかなければならないので販売促進と広報をお願いします。当初予定のデジタル編は中止いたしました。それは諸般の事情とデジタル版特有の難しさと電子機器の急激な進化がございました。どうするのが良いのか、かなり時間をかけないと回答が出ないということで中止となりました。その他、索引・年表編があればと会議では話しておりましたが、索引編は刊行期間内に間に合わないということでしたが、索引編の別巻が今後できれば有難いだろうなど、市民のお役に立つと思っております。今後の努力目標でありますけれども、第2次市史刊行については、愛知教育大学名誉教授の故新行先生と稲田先生が関わっており、その市史を刊行後、新行先生は資料の保存意識が不十分であった、収集した資料の保存ができなかったことに悔いが残るとしばしば仰っていました。資料の保存というのは、市史ができたから資料は不要で破棄するのではなく、市史ができた後も保存し、それを基に新知見が生まれるということ、つまり現在でも歴史学は進化しておりまして、新しい解釈ができるようになると古い資料をもう一回再検討する必要があります。その時に現物がないと確認作業が不可能になります。史資料を廃棄する

というのは過去の記録がなくなるということであり、我々の世代だけの問題ではなく、後世に伝えていく義務があるということを忘れてはなりません。それから、収集した史資料の整理、未刊の史資料集を発刊することも重要です。例えば『八橋編史資料収集目録』など各資料編をつくる際、多くの資料が集まりましたが、紙数に限りがあり泣く泣く頁に収まらなかった資料がたくさんあります。収集した資料を、せめてどんな資料があるのか、目録だけでも今後刊行できればと思っています。また、新史資料の収集ですが、今後市民の方が持ち込まれる知立市に関する文書、住宅を取り壊す際に破棄される古文書、近世文書はまだ市民のお宅に眠っているだろうと思います。また、発掘作業に伴う考古学資料、知立市に関する文書で市外に流出した文書は回収（購入）し保存する必要があると考えます。それらは第4次市史の目玉になると思っています。しかし、その場合、既存収集史資料や新収集史資料の保存問題が発生してきます。場所の確保は資料保存の死活問題です。それから史資料の活用ということで、市民公開（個人情報等の問題）とデジタル化問題があり、万が一の対応として現物をデジタル化しておかないといけません。そして、市民へ公開するための施設の問題、市民の財産であるため何年かに一度は公開し、意識喚起する必要があります。以上を踏まえての提案が、新博物館構想（知立市博物館）についてです。現在の知立市歴史民俗資料館は、1987年に開館しましたが、一度もリニューアルしておりません。一方、他市は随時リニューアルをしております。2000年代になり博物館・資料館自体の構想が根本から変わってきていると痛感しております。例えば近隣では安城市歴史博物館は1999年に開業し、新しいタイプの博物館として市民に親しまれております。刈谷市郷土資料館は2011年にリニューアルが行われ、2019年には新しい刈谷市歴史博物館が開館し、今年開業5周年記念を行うと聞いています。それから豊田市郷土資料館は豊田市史が完成すると、時を同じくして閉館し、そのあと豊田市博物館が2024年4月26日にオープンして市史を有効活用すると聞いています。西尾市岩瀬文庫は博物館級の図書館がリニューアルオープンしてます。これら近隣市の施設はいずれも市民への文化発信センターとしての役割を果たしています。これから先は観光都市・文化都市、魅力ある都市としての文化施設への投資が必要になってくるのではないのでしょうか。では、知立独自の歴史遺産としては何があるかと言いますと、知立祭り（山車、神社）・八橋・街道（東海道、京 - 鎌倉往還）等、歴史文化遺産があります。何よりも交通の要衝だということでやはり知立市は圧倒的に交通の便が良い、いわゆる三河のセンターとしての博物館があってもいいのではないかと考えております。今申し上げてきたことは、次世代への市文化遺産の橋渡しとして来るべき第4次市史のための準備でもあります。市史編さんのサイクルを考えると、次は市制80周年（2050年）頃に当たりますので、次世代に適切にバトンタッチしていけるよう、取り組みをしていただければと思っています。以上をもちまして、今次市史編さんの総括と完了報告といたします。

林会長：ありがとうございます。

3 報告

林会長：それでは次に進めさせていただきます。報告1、『はじめての知立市史』について報告をお願いします。

事務局：お手元の資料をご覧ください。『はじめての知立市史』についてですが、一言で申し上げますと「旧石器時代から現代までの知立の特徴のある歴史」を27のトピックに厳選いたしま

して、キャッチコピーでもありますが、大人も知らない地元の歴史を紹介する本となっています。サイズA4判、横書き2段、並製本、オールカラーの本となります。総ページ数は105頁、発行部数1,000部、価格は1,000円となっています。コンセプトといたしまして、知立の歴史を簡潔に分かり易くビジュアル重視で紹介する、対象は高校生以上で、知立にはじめて来た人や、知立の歴史にあまり詳しくない人が本をご覧になって楽しめるようにと作っております。1トピックにつき見開き2頁または4頁で構成されており、自身が興味のある頁から読んでいただくことができます。図版もたくさん掲載しています。見本にもあるように、例えば木簡については、原寸大で写真を掲載することで大きさを実感できるように工夫を凝らしています。値段については、お手軽な価格として1,000円と設定しております。また、本文の補足事項は、学芸員やちりゅっぴが吹き出しで説明をしております。さらにピックアップやクローズアップをつけることで関連事項の紹介や深掘りをして裾野を広げています。また基本的なこととして市史とは何かや市史・図書館・歴史民俗資料館の活用方法も紹介しております。この本を用いて、あるいは市史の導入として、市内の小中学校における教育現場で活用いただければという思いもあります。なお、販売は令和6年5月を予定しております。

林会長：何かご質問ありませんか。

松永委員：『はじめての知立市史』で、知立に越して来られる方、越してきて間もない方に知立を知ってもらうことは大切と思いますが、ホームページにデータで掲載することは可能ですか。

事務局：将来的にホームページに掲載することが出来ればと思いますが、図版等については新たな許可が得られないと掲載できない場合が多々あり、またHP上だと許可がおりないケースも起こり得るので難しいのが現状です。

林会長：事前に製本前に見せてもらいましたが、とてもいいなあと思いました。サブタイトル「大人も知らない地元の歴史」ということで、松永委員が引越してきた人と言いましたが、私も知立で生まれ育ってわからないことがいっぱいあります。カラーでわかりやすく書かれていますし、価格も1,000円で多くの方に見ていただけるかなと思います。先ほど、西宮先生も仰ったとおり高校生以上の子にもわかりやすく書かれております。索引編の別巻があると便利と仰っていましたが、索引的なトピックが27あって、例えば15のトピックの「戦争前後の人々」は概略的なことが書かれていて、その中で八ツ田の住民が協議した時の会議記録があります。これをもっと知りたい場合は資料編、通史編と追って見ることができますので、ある意味、索引編として使用ができるのではないかと思います。とてもよくできていると思いますので多くの方に見ていただきたいなと思います。

他にはございませんか。それでは、次に、報告2、新編知立市史完成記念講演会について事務局より説明をお願いします。

事務局：令和6年3月24日（日）文化会館（パティオ池鯉鮒）花しょうぶホールで開催いたします。時間は13時30分から15時45分で予定しております。内容といたしまして、基調講演を「新編知立市史を振り返って」と題しまして編集委員会代表の西宮委員にご講演いただき、また、分野報告といたしまして各部会長から各10分程度の報告をしていただきます。その後、休憩をはさみ、座談会といたしまして「これからの知立市史」ということで、パネラーに、西宮先生、林市長、宇野教育長にご登壇いただき、これからどのように活用していくの

かということについてフリートークで市民にお伝えできればと思っています。

林 会長：ご質問ございませんか。また、全体を通じて何かあれば仰ってください。

最後に、皆様方におかれましては長きにわたり市史編さん事業にご尽力いただきありがとうございました。本年度で事業は完了いたしますが、これからも資料整理、資料の活用を進めてまいりたいと考えておりますので、改めてこれからもご理解ご協力よろしく願いいたします。以上で議事は終了いたしました。

事務局：ありがとうございました。市史編さん委員の任期につきましては令和6年3月31日までとなっておりますが、編さん委員会は本日を持って終了となります。委員の皆様方には長きにわたりご尽力いただきありがとうございました。これを以ちまして第16回市史編さん委員会を終了いたします。ありがとうございました。